

部員に聞きました

『ちょうふピース部』が皆さんに“平和”を伝えていくために…



Q1 これから何をしたいですか？

A 被爆者の証言の映像や音声を記録として残す

A 義務教育や高校の歴史の授業でもっと戦争のことを学ぶようにする

A 資料館などに行って理解を深めたり、跡地に行って肌で戦争の恐ろしさを感じたい

A 市内外の色々なステージで想いを発表したい

A 海外のことにも目を向けて多面的に考える思考を持ちたい

A 身近なところでの人助けを今までよりも積極的にしていきたい

Q2 実際に行動・実践していることは？

A 平和関連のイベントに参加している

A 戦争に関する番組や動画を見ている

A 学校での戦争に関する話し合いで、積極的に平和の大切さを発言している

A 両親や親戚など身近な人たちに自分の活動を話している

A 資料館などに行ってより戦争の実態を知る

A アイルランド(留学先)でのイベントで、日本での平和活動を発表

Chofu Peace Library

ちょうふピースライブラリー
～調布市平和デジタルアーカイブ～



戦後80年という節目を捉え、市内に残る戦争に関する資料や戦争体験映像記録などをデジタルアーカイブ化し、戦争の記憶・平和の尊さを次世代へ継承するために開設しました。このちょうふピースライブラリーは、市内や近隣市の戦跡の紹介や、戦争体験者の体験談の動画配信をおこなうとともに、市内の子どもたちが描いた絵画や調布市の平和事業について紹介するなど、これからも内容の充実を図っていきます。



発行／ちょうふピース部・調布市
協力／NPO法人ちょうふ子どもネット
問い合わせ／生活文化スポーツ部文化生涯学習課
〒182-8511 調布市小島町2-35-1
Tel:042-481-7139
Mail:bunsin@city.chofu.lg.jp

ピース・レターちょうふ
ちょうふピース部特別版



ピース部メンバーで作成したオリジナルのロゴです。

めち ～命どう宝～

私たち『ちょうふピース部』は1月10日から12日まで沖縄県に派遣されました。資料館の見学やフィールドワークなど、様々な活動を行うことができました。

今回の派遣を通して、戦争の悲惨さと平和の尊さを学びました。是非市民の皆さんに見ていただき、沖縄であったことや平和について考えるキッカケになって欲しいです。



参加した8人のメンバー



「平和の礎」の前で

※「命どう宝」とは沖縄の方言で「何よりも命が大切」という意味。

令和8年3月発行

「ちょうふピース部」とは

調布市は「ピースメッセンジャー」として任命した市内の中学生を市民の代表として被爆地へ派遣し、学びの成果を広く市民へ還元する取組を行っています。令和5年度から「ちょうふピース部」を立ち上げ、ピースメッセンジャーたちが派遣された年度以降も継続的に活動し平和への想いを発信しています。



ちょうふピース部

わたしたちが沖縄で見て学んだこと

戦争末期に起こった疎開船沈没事故についての資料館。幼いながら懸命に生きようとする事故生存者の話・姿に心が打たれた。



● 対馬丸記念館

● 旧海軍司令部壕



米軍の攻撃が激化すると壕内に4000人の兵士が避難したとされる。過酷な環境が重い空気とともに伝わってきた。

● 喜屋武岬



戦禍に追い詰められた県民がたどり着いた断崖絶壁。悲しい歴史を背負ったこの崖から見える水平線に、様々な思いが交錯した。



● ひめゆりの塔



ここは陸軍病院として多くの女生徒が看護に従事した場所で、生徒の大半は解散命令後に亡くなった。私と歳の近い子達が大勢亡くなったという事実にとっても心が痛くなった。

● 米軍基地に関するフィールドワーク



住民の生活と米軍基地が隣接する光景を、間近で自分の目で見た。これが今も沖縄にある現実と知り大きな衝撃を受けた。

● 大学生とのディスカッション



沖縄では基地の騒音や事故への不安から、負担が大きいと感じる住民の声が多いと知った。現地に住む人の想いを聞ける良い機会だった。

● 平和祈念公園



「戦争をするのは人間だが、戦争を許さない世界を作れるのも人間である」
私達が平和の波を広げていくべきだと思った。

各地の詳細や私たちが感じた想いはホームページで公開中！→

